

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ センシュウダイガク	フリガナ ケイザイガクブ	フリガナ ジョ イチエイゼミナール
専修大学	経済学部	徐 一睿ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ センディー	フリガナ タキ シンヤ	4	無	
センディー	滝 真弥			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ（発表タイトル）

六次産業におけるミスマッチを解消するには

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たちは地方の過疎化に目をつけた。現在多くの過疎地域が存在する中で、これ以上過疎化を進行させないためには、産業の発展が必要だと感じた。研究を進めていくうちに、生産、加工、販売までを一貫して行う『六次産業』という取り組みを地方で推進していくべきであるという考えに至った。六次産業に取り組むことで、雇用の創出に加え、所得の向上や新たな地域資源を生み出すことができる。そこで、私たちはいかに六次産業化を進めていくべきかを研究していきたいと考えた。しかし、六次産業化には多くの失敗事例が存在し、簡単には成功しないということが分かった。

六次産業化を進めていくうえで、大きな課題となるのが、農家とマーケットの情報の非対称性と、リスクを考えると六次産業に踏み出すことができない、という2点である。このような点から、私たちは共同経営による六次産業の実現が理想的であるという考えに至った。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本の農業は衰退の一途をたどっている。衰退している理由として、日本の総人口が減少傾向にあるため、必然的に市場規模が小さくなっていく上に、大半の農家は、栽培した作物を農協に買い取ってもらっている。農家には価格決定権がなく、収入が限られてくる。そのため儲からず、後継ぎが減り、衰退していく。そこで出てきた考えが六次産業である。六次産業は生産、加工、販売までを一貫して行うため、自分たちが価格設定を決めることができるので収入が上がる。六次産業を確立することで所得の向上や雇用の拡大などの大きな成功につながるのではないだろうか。

3. 研究テーマの課題

現状では六次産業の失敗例が多く見受けられる。その理由として、個人で行うことによって、資金面、リスク面、知識面を補えないことが挙げられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

六次産業を個人という小さな規模で行うのではなく、その地域全体という大きな規模で六次産業を進め、加えて必要資金やアイデアを集めるためのクラウドファンディングを導入していき、Eコマース（電子商取引）を活用していきたい。

このようにして個人ではなく一括りの地域という枠組みで地域協力体となり、六次産業事業に取り組んでみてはどうだろうか。そうすることによって、コミュニティが形成され、合議制が実現する。合議制が実現することで、様々な知識を持った人たちが意見を出し合い、より良い六次産業プランの提案、企画が可能になる。また、そのコミュニティ内で複数人が出資することによってリスク分散も図れる。

例：地域内の複数の果樹農家資金を出し合い、果実を加工する機械を買う。その機械を使って加工し、出来上がった加工品を売り出していく。それが地域の特産品となり、一大産業となり得る。

しかし、ここで注意しなければならないのが、六次産業において大きな課題であった売り手と買い手のニーズのミスマッチングである。この解消にはこのような売り手だけの協議に限らず、外の意見、買い手の意見が必要になっていく。ここで私たちが考えたのが、「クラウドファンディングの導入」である。クラウドファンディングとは、不特定多数の人が、インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことである。このシステムを導入し、資金面だけでなくアイデアやプロジェクトも提案してもらうことで、買い手のニーズを知り、ミスマッチングを解消していく。そして出来上がった商品を出資者に対するリターンとして送ることでその商品の一応援者、愛好者となり、販路拡大にもつながる。

ポイントとして、地域協力体を形成しリスクシェアリングを行うことと、クラウドファンディングを利用し消費者に近い投資家たちの生の声を聴き情報の非対称性をなくすることが重要である。

このようにして、地域に根差した産品を生かした六次産業を地域全体で行い、クラウドファンディングを導入することで地域産業が潤い、観光業にも良い影響を与えていくのではないかと、というのが私たちの考えである。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

実際に六次産業事業に取り組んでいる農家や事業者の方に現状やどのような課題について伺った。そこで多くの方が、六次産業事業には失敗事例が多く存在し、一大事業になるのは難しく、その会社の知名度を上げるに過ぎないと仰っており、六次産業の難しさというものを学んだ。加えて私たちは多くの失敗事例を集め、そこから失敗原因を分析した。

まず、農家単体または農家と事業者だけでは販路開拓、経営、衛生管理など様々な分野の専門的知識が足りない点が原因であると分析した。そこに手を差し伸べる組織として行政に目を向け、ある市役所にお話を伺いに行った。そこで市役所の仕事の一環として行っている六次産業化に関する取り組みをレクチャーしていただいた。そこから、行政は農家や事業者を結び付ける取り組みや国や県が行っている補助金制度や先ほど述べたような専門的知識を教える勉強会を開催しているということが分かった。

しかし、国や県からの補助金には使い道に制約があるため、融通が利かない。また、失敗事例の中には農家が多くの補助金を無駄にしてしまった例が多く、行政の取り組みを生かすためにも、個人としての六次産業ではなく、一つの大きなコミュニティの中での六次産業が効果的であるのではないかと分析結果に至った。

そこから私たちが考えた案は、1980年から大分県で行われた一村一品運動の前例に類似点があったため、関係する文献を参考にし、理解を深めた。

6. 結果や今後の取り組み

一村一品運動、六次産業化、E コマースという三つの核のそれぞれの強みを生かし、連携させていくことで最終的に地域の活性化につながっていくはずである。この連携の仕組みがいかに取られていくべきかを今後、より研究していきたい。

7. 参考文献

・農林水産省「農村の現状」

http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h24_h/trend/part1/chap4/c4_1_01.html

・6次産業化とは？ メリット・デメリット、主な事例 - ジブン農業（最終閲覧日：2018年9月2日）

<https://www.sangyo.net/contents/myagri/industries.html>

・農林水産省 6次産業化先進事例集【100事例】（平成23年4月）（最終閲覧日：2018年9月17日）

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika/jirei/pdf/kantou_jirei.pdf

・小林敬幸／『ビジネスをつくる仕事』著者「期待の6次産業育成、なぜ成功例出ない？ 生産、販売、規制…立ちはだかる多数の壁」（Business Journal 2014年9月30日）（最終閲覧日：2018年9月17日）

https://www.google.co.jp/amp/s/biz-journal.jp/i/amp/2014/09/post_6174.html

・城戸宏史 北九州市立大学大学院マネジメント研究科 教授『「一村一品運動」から紐解く「地方創生」』

https://www.jeri.or.jp/center/pdf/center_2016_09_02.pdf

・A-port 朝日新聞社「クラウドファンディングとは」

<https://a-port.asahi.com/guide/>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員（ビジネスパーソン・大学教員）の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会（プレゼン局）にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください